



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	コープさっぽろやまはな店	階数	2
建設地	札幌市中央区南22条西10丁目1203-6,-25,-27,-29,-33,-36,-47,-52,-53,1205-6,-8,1206-1,-4,-5,-6,-7,-8	構造	S造
用途地域	2地域	平均居住人員	727 人
建物用途	物販店	年間使用時間	5,475 時間/年(想定値)
竣工年	2021年10月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	3,714 m ²	評価の実施日	2021年4月15日
建築面積	1,855 m ²	作成者	菊池 俊一郎
延床面積	3,500 m ²	確認日	2021年4月16日
		確認者	

「配慮シート」に外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2 ★★★★★ B+</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>実施設計段階</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 77% ③上記+②以外のオンサイト手法 31% ④上記+オフサイト手法 17%</p> <p>このグラフは、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量を評価者自身の計算(個別計算)により算出した結果を示しています。LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート(個別計算)」を参照されたい</p>	<p>Q2 サービス性能 5 Q1 室内環境 3 Q3 室外環境(敷地内) 3 LR1 エネルギー 3 LR2 資源・マテリアル 3 LR3 敷地外環境 3</p>

2-4 一次エネルギー消費量の評価
建物全体の[BEE][BEIm]= 0.76

2-5 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Q のスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合 駐車場・駐輪場を確保し、来客用車路と搬入車路を分ける事で交通負荷の抑制と来客の安全も確保している。 外皮性能の向上に努める事で、敷地外環境等に配慮した。</p>	<p>A 省エネルギー 照明器具をLED照明とする事、外部の窓ガラスの一部にペアガラス・LOW-Eガラスを使う事で外皮性能の向上に努め、温熱環境に配慮した。</p>	
<p>B 省資源等 設備配管・内装材を更新年数の長い材質を採用。 照明器具も更新年数が長いLEDを採用する事で、エネルギー消費量の低減だけでなく、省資源にも配慮した。</p>	<p>C 緑化 道路境界付近に生垣を設ける事で、信号待ちの人々や歩行者への排気ガスの影響が少ないように配慮した。</p>	
<p>D 雪処理 冬期は、駐車場の一部を雪の堆積場とする事で、周囲への配慮を心掛けた。</p>		

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	なし	LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

コープさっぽろやまはな店

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.3
1 音環境			3.4	0.15				3.4
1.1 室内騒音レベル		天井材に化粧石膏ボードの施工	4.0	0.40				
1.2 遮音			3.0	0.40				
1 開口部遮音性能			3.0	1.00				
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音			3.0	0.20				
2 温熱環境			3.0	0.35				3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50				
1 室温			3.0	0.60				
2 外皮性能	省エネ		-	-				
3 ゾーン別制御性			3.0	0.40				
2.2 湿度制御			3.0	0.20				
2.3 空調方式			3.0	0.30				
3 光・視環境			3.0	0.25				3.0
3.1 昼光利用			3.0	0.50				
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	1.00				
3.2 グレア対策								
1 昼光制御	省エネ							
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御			3.0	0.50				
4 空気質環境			4.2	0.25				4.2
4.1 発生源対策			5.0	0.50				
1 化学汚染物質		内装仕上・造作家具・建具・天井裏内の材料は、下地・接着剤共、全てF☆☆☆☆としている	5.0	1.00				
4.2 換気			3.0	0.30				
1 換気量			3.0	0.50				
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50				
4.3 運用管理			4.0	0.20				
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50				
2 喫煙の制御		建物全体を禁煙とする	5.0	0.50				

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.3
1 機能性				3.4	0.40	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	
1	広さ・収納性				-	-	
2	高度情報通信設備対応				-	-	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		1階売場天井高さCH3700 2階売場天井高さ 直天	5.0	0.33	-	
2	リフレッシュスペース		ソーシャルディスタンス確保を目的として、43.87㎡としている	4.0	0.33	-	
3	内装計画			3.0	0.33	-	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計		設備機器等のメンテナンス等を考慮し、天井裏スペースを確保	4.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数			-	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		2.0	0.25	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		3.0	0.13	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.13	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要用途2種についてC以上	4.0	0.25	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.25	-	
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		1階階高H=4.680m 2階階高H=4.300m	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.05	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BEIm=0.76	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.76 -	3.8	0.50	-	-	3.8
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		2.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.14	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.29	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	再生砕石	3.0	0.29	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体と仕上材を容易に分別可能 内装材と設備機器をそれぞれに取外し可能	5.0	0.29	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	1.00	-	-	
3 冷媒	省資源		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	省資源	省エネルギー性能の向上の為、建物の外壁断熱・屋根断熱に配慮した	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源	駐車場舗装面で地表面貯留を行い、下水道への流出を抑制している	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐輪場50台・原付バイク置場6台を歩道に面して設置 一般車両と搬入車両との分別	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 電処理		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.2	BEEランク	B+
建物名称	コープさっぽろやまはな店				
建物用途	物販店				
延床面積	3,500.3 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p>
	省資源等	★★★★☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下</p> <p>★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下</p> <p>★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下</p> <p>★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下</p> <p>★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 22.5 最低点 6.3)				合計	15.9点 /22.5点
Q1 温熱環境	スコア	0.0 /0.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.5 /2.5	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	7.6 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	1.6 /4.0
B 省資源等 (最高点 24.2 最低点 7.4)				合計	15.6点 /24.2点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.8 /1.4	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.1 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.3 /2.1
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.8 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.7 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計	7.5点 /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.4 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計	2.0点 /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数